

NO	区分	意見の内容	対応 ○:全部対応 △:一部対応	対応の内容												
①	浸水想定	連動する断層と連動しない断層が、資料では判別できない。	○	今後作成する資料に、連動についての説明を加える。												
②		明瞭な海底地形図があった方が分かりやすい。	○	上記説明に含む(国交省検討会資料引用)												
③		F34断層では、最近(1833年、1964年)地震が発生している。断層が陸に近いため津波シミュレーションを行う意義はあるが、この断層は最近地震が発生しているため当分は地震が発生しないだろうという誤解や、津波高はF30断層による津波の方が高いから被害は大きくないという安心を生むようにならないように公表していくことが必要。	○	誤解や安心を生まないよう、公表の際は留意する。												
④		浸水想定を10mメッシュで行うとのことだが、人が住んでいるところだけでも10mメッシュよりも細かいメッシュができないか。	△	10mメッシュでは浸水ルートがふさがれてしまう場合等は、5mメッシュのデータを用いてデータを補完(修正)することとし、その他は10mメッシュで浸水想定を行う。 ※既に津波浸水想定を設定済みの17府県のうち、16府県が10mメッシュで、1県が12.5mで設定している。												
⑤	被害想定	F34断層が動いた場合を想定した庄内海浜北部、遊佐岩礁の津波について、評価をしなくていいのか。	○	F34について次のケースを追加する。 庄内海浜北部海岸:基本_右 遊佐岩礁海岸:隣接_LRLR												
⑥		被害の「見える化」をするなど、見せ方を工夫することが必要。	○	今後の防災対策の参考資料として活用できるように、関係機関と協議しながら、被害の概要を分かりやすくとりまとめていく。												
⑦		復旧方法、人命救助のポイントは「3日間」であるため3日間にどれだけのことができるのか、何日間浸水してしまうのか、インフラの被害の程度によって復旧に要する日数や備蓄がどれだけ必要か、他地域からの応援がどれだけ必要かなど、被害想定後に作成する被害対応策のため、必要なデータを整理しておくことが重要である。	△	1 庄内地域には海拔0m地帯はないため長期湛水する場所はない。津波の終息後、救助活動・道路啓開活動は可能と想定する。 2 道路では橋梁、防災点検箇所個別評価を実施する。その想定結果は、道路啓開計画などの基データとして活用可能。 3 復旧日数、必要物資(食料・水・仮設トイレ)は算定する。												
⑧		被害の「見える化」では、時系列でどういう被害が起きるのか想定することが大事。また、ある素因により次の被害を生じてしまうなど被害の複合化の想定も重要。	○	被害を時系列で表す「災害シナリオ」を作成する。												
⑨		人の住んでいるところだけでも250mよりも細かいメッシュで被害想定をするなど、メリハリをつけてほしい。	○	津波浸水に係る建物被害・人的被害については50mメッシュで、その他は250mメッシュで算定する。												
⑩		被害の想定を行う際は、夏の観光シーズンを想定した被害を算定することも重要。	○	海水浴客が多い夏の昼のケースで被害想定を行い、避難誘導を検討する際の参考資料に活用できるようにする。												
⑪		被害想定にあたっては、庄内地域特有の冬期間の暴風雪を考慮してほしい(夜間、暴風雪時には避難に多くの時間を要する)。	○	津波避難行動に関しては、季節、時刻及び条件(風速)に応じ、避難開始時刻、避難速度を変更のうえ、被害想定を行う。 季節と時刻、条件は次の6パターン <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>ケース(季節)</th> <th>風速平均</th> <th>風速最大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏の昼</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>冬の夕</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>冬の深夜</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	ケース(季節)	風速平均	風速最大	夏の昼	○	○	冬の夕	○	○	冬の深夜	○	○
ケース(季節)	風速平均	風速最大														
夏の昼	○	○														
冬の夕	○	○														
冬の深夜	○	○														